

平成 27 年度
日本商工会議所

第140回

簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

LEC 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C)2015 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2015年6月14日/2015年11月14日



0 000212 153341

BL15334

第 140 回 解 答

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	前 受 金	30,000	売 上 金	162,000
	売 掛 金	132,000	現 金	5,000
	立 替 金	5,000		
2	旅 費 交 通 費	30,000	現 金	30,000
3	支 払 地 代	50,000	普 通 預 金	50,000
4	所 得 税 預 り 金	208,000	現 金	208,000
5	借 入 金	1,000,000	当 座 預 金	1,010,000
	支 払 利 息	10,000		

仕訳 1 組につき、4 点

第 2 問 (10 点)

①	②	③	④	⑤
総勘定元帳	仕入先元帳	仕入	851,000	6,000
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
520,000	100,000	224,000	324,000	280,000

②は買掛金元帳でも可。

各 1 点

第3問 (30点)

(1) 合計残高試算表

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
☆ 46,500	76,000	現金	29,500	
☆ 112,900	304,400	当座預金	191,500	
☆ 27,400	153,400	受取手形	126,000	
☆ 148,700	270,700	売掛金	122,000	
	60,000	繰越商品		
☆ 152,800	152,800	備品		
☆	96,000	支払手形	169,000	73,000
☆	94,000	買掛金	151,000	57,000
☆		(未払金)	12,800	12,800
		貸倒引当金	7,000	7,000
		備品減価償却累計額	60,000	60,000
		資本金	300,000	300,000
☆		売上	422,500	422,500
☆ 280,000	280,000	仕入		
☆ 32,000	32,000	給料		
	42,000	支払家賃		
☆ 13,500	17,500	水道光熱費	4,000	
☆ 8,000	11,000	通信費	3,000	
☆ 4,000	4,000	支払手数料		
	4,500	消耗品費		
932,300	1,598,300		1,598,300	932,300

(2)

数量	単価	金額
470 個	@ ¥ 58	¥ 27,260

(1) ☆の行につき2点、(2) 全て合っていて2点

第4問 (10点)

(1)

出金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
商品券	500	商品券	9,500	売上	9,500

(2)

入金伝票	
科目	金額
受取配当金	20,000

(3)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
前払金	15,000	当座預金	15,000

(1) 4点、(2)および(3) 各3点

第140回 解答

第5問 (30点)

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	62,000		2,000				64,000	
普通預金	129,000		50,000				179,000	
当座預金	254,000			3,000			251,000	
受取手形	360,000						360,000	
売掛金	290,000			50,000			240,000	
仮払金	30,000			30,000				
繰越商品	314,000		337,000	314,000			337,000	
貸付金	200,000						200,000	
備品	400,000						400,000	
土地	800,000						800,000	
支払手形		275,000						275,000
買掛金		210,000						210,000
前受金		50,000						50,000
貸倒引当金		6,000		6,000				12,000
備品減価償却累計額		150,000		100,000				250,000
資本金		1,789,000						1,789,000
売上		4,510,000				4,510,000		
受取地代		84,000	12,000			72,000		
仕入	3,160,000		314,000	337,000	3,137,000			
給料	627,000				627,000			
旅費交通費	250,000		28,000		278,000			
支払家賃	143,000			11,000	132,000			
保険料	45,000			20,000	25,000			
租税公課	10,000		3,000		13,000			
	7,074,000	7,074,000						
貸倒引当金繰入			6,000		6,000			
減価償却費			100,000		100,000			
(前払)保険料			20,000				20,000	
受取利息				2,000		2,000		
(未収)利息			2,000				2,000	
(前受)地代				12,000				12,000
(前払)家賃			11,000				11,000	
当期純(利益)					266,000			266,000
			885,000	885,000	4,584,000	4,584,000	2,864,000	2,864,000

につき、3点

【3級総評】

全体的には、基本から標準レベルの問題でした。合格答練や問題集でアウトプット練習を本試験対策として行っていれば、第1・3・5問を中心に、得点を積上げることができたと思います。第2・4問は受験生にとっては解きにくい内容も含まれていたため、短時間で効率よく解答して、7割程度の得点を積上げておくことができたかがポイントです。

【解説】

第1問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があることに注意しましょう。

1. 売上諸掛

先方負担の売上諸掛は、立替金で処理するか、売掛金に含める処理をします。本問では、掛代金とは区別して計上するので、立替金で処理します。

2. 旅費交通費

電車およびバスの料金についてICカードに入金した場合は、旅費交通費の前払いを意味しますが、問題文の指示より、入金額全額を旅費交通費とします。

3. 支払地代

駐車場の地代を普通預金から支払っています。支払地代を計上するとともに、普通預金を減少させます。

4. 源泉所得税の納付

給与の支払い時に天引きしていた源泉所得税を納付しているので、所得税預り金を減少させます。

5. 借入金の返済

借入金の支払期日が到来したため、利息とともに返済をしています。借入金を減少させるとともに、支払利息を計上します。

$$¥1,000,000 \times 1.5\% \times \frac{8\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = ¥10,000$$

第2問

主要簿である総勘定元帳(①)の買掛金勘定と補助簿である仕入先元帳(②)の京都商店勘定および奈良商店勘定の記入内容を比較し、記入内容を推定する問題です。

解答手順としては、同じ日付の記入から取引を推定し、これを仕訳に直し、空欄を推定していきます。なお、取引を推定するために、仕入先元帳の摘要欄に取引内容が記載されていることも活用します。

5/1 前月繰越の記入

仕入先元帳は、商店ごとに買掛金の増減および残高を把握するために作成するものなので、各商店の5/1における残高の合計は、買掛金勘定の残高と一致します。

$$\text{奈良商店勘定残高} : ¥540,000 - ¥216,000 = ¥324,000 \text{ (⑨)}$$

5/7 掛仕入れ

京都商店勘定の貸方2行目より、京都商店に対する掛仕入¥520,000があったことが分かります。

(借) 仕	入	520,000	(貸) 買掛金 (京都)	520,000
-------	---	---------	--------------	---------

よって、買掛金勘定の貸方2行目の空欄は「仕入 520,000 (⑥)」となります。

第140回 解説

5/9 仕入返品

京都商店勘定の借方1行目より、京都商店に対する掛仕入について、仕入返品があったことが分かります。

(借) 買掛金 (京都)	9,000	(貸) 仕入	9,000
--------------	-------	--------	-------

よって、買掛金勘定の借方1行目の空欄は「仕入 (③) 9,000」となります。

5/15 買掛金支払い

買掛金勘定の借方2行目、京都商店勘定の借方2行目、奈良商店勘定の借方1行目より、買掛金の支払いを当座預金から行っていることが分かります。なお、奈良商店に対する買掛金の支払額は、20日の奈良商店からの掛仕入額を把握してから、貸借差額で求めます。

(借) 買掛金 (京都)	627,000	(貸) 当座預金	627,000
(借) 買掛金 (奈良)	224,000	(貸) 当座預金	224,000

奈良商店への支払額：⑩を推定後、貸借差額により、¥224,000

当座預金による支払額総額：¥627,000 + ¥224,000 = ¥851,000

よって、買掛金勘定の借方2行目の空欄は「851,000 (④)」、奈良商店勘定の借方1行目の空欄は「224,000 (⑧)」となります。

5/20 掛仕入れ

買掛金勘定の貸方3行目、奈良商店勘定の貸方2行目より、奈良商店に対する掛仕入¥280,000があったことが分かります。

(借) 仕入	280,000	(貸) 買掛金 (奈良)	280,000
--------	---------	--------------	---------

よって、奈良商店勘定の貸方2行目の空欄は「280,000 (⑩)」となります。

5/25 仕入値引

奈良商店勘定の借方2行目より、奈良商店に対する掛仕入について、仕入値引があったことが分かります。

(借) 買掛金 (奈良)	6,000	(貸) 仕入	6,000
--------------	-------	--------	-------

よって、買掛金勘定の借方3行目の空欄は「仕入 6,000 (⑤)」となります。

5/31 次月繰越の記入

各商店の5/31における残高の合計は、買掛金勘定の残高と一致します。

京都商店勘定残高：貸借差額により、¥100,000 (⑦)

買掛金勘定残高：¥100,000 + ¥374,000 = ¥474,000

第 3 問

合計残高試算表の作成および商品の月末在庫算定に関する問題です。

問(1) 合計残高試算表の作成

合計残高試算表の作成手順としては、まず、取引資料について仕訳をします。次に各勘定の 4 月 30 日現在の合計に、仕訳された金額を加算して 5 月 31 日現在の合計を求め、残高も算定します。

【資料Ⅱ】平成 27 年 5 月中の取引

4 日	(借)	仕	入	21,000	(貸)	買	掛	金	21,000
5 日	(借)	当	座	預	金	(貸)	売	上	36,800
		受	取	手	形				18,400
7 日	(借)	買	掛	金	21,000	(貸)	支	払	手
	(借)	通	信	費	500	(貸)	現	金	500
11 日	(借)	備	品	12,800	(貸)	未	払	金	12,800
12 日	(借)	消	耗	品	費	(貸)	現	金	2,500
14 日	(借)	仕	入	29,000	(貸)	支	払	手	形
15 日	(借)	水	道	光	熱	費	(貸)	当	座
18 日	(借)	支	払	手	形	(貸)	当	座	預
20 日	(借)	給	料	6,000	(貸)	当	座	預	金
25 日	(借)	売	掛	金	35,700	(貸)	売	上	35,700
26 日	(借)	当	座	預	金	(貸)	受	取	手
	(借)	支	払	手	数	料	(貸)	当	座
28 日	(借)	支	払	家	賃	(貸)	当	座	預
	(借)	通	信	費	2,000	(貸)	当	座	預

問(2) 5 月末に保有している A 商品の数量、単価および金額

取引資料のうち A 商品の増減のみに着目し、A 商品の 5 月末における在庫の状況を先入先出法により整理します。先入先出法では、先に仕入れたものから先に払出すと仮定して払出単価を決定します。

先入先出法による記入内容を受入欄・払出欄に着目して、T 勘定形式で表すと以下のようになります。

A 商品	
前月繰越	500 個 @ ¥50 ¥25,000
4 日	350 個 @ ¥60 ¥21,000
14 日	500 個 @ ¥58 ¥29,000
5 日	(全部で 460 個) 460 個 @ ¥50
25 日	(全部で 420 個) 40 個 @ ¥50 350 個 @ ¥60 30 個 @ ¥58
次月繰越	470 個 @ ¥58 ¥27,260

※ 先入先出法は、先に仕入れたものから払出したと考えます。よって、次月繰越は、後から仕入れたものから構成されます。この点に着目できれば、月末残高の分析が、迅速に出来ます。

第140回 解説

第4問

伝票会計の問題です。取引の仕訳を考え、答案用紙の伝票に合わせて起票します。なお、勘定科目について指定があることに注意しましょう。

(1) 売上

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	商	品	券	10,000	(貸)	売	上	9,500
						現	金	500

この仕訳を、取引を分解して起票します。

出金伝票：	(借)	商	品	券	500	(貸)	現	金	500
振替伝票：	(借)	商	品	券	9,500	(貸)	売	上	9,500

(2) 配当金領収証の受取り

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	現	金	20,000	(貸)	受	取	配	当	金	20,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------

この仕訳を、入金伝票で起票します。

入金伝票：	(借)	現	金	20,000	(貸)	受	取	配	当	金	20,000
-------	-----	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------

(3) 手付金の支払い

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	前	払	金	15,000	(貸)	当	座	預	金	15,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	--------

この仕訳を、振替伝票で起票します。

振替伝票：	(借)	前	払	金	15,000	(貸)	当	座	預	金	15,000
-------	-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	--------

第 5 問

精算表の作成問題です。まず、未処理事項および決算整理事項について修正記入欄に記入します。次に残高試算表欄の金額に修正記入欄の金額を加減算し、収益・費用に属するものは損益計算書欄に、資産・負債・純資産に属するものは貸借対照表欄に記入します。

[未処理事項]

1. 現金過不足と仮払金精算

現金の実際有高が帳簿残高よりも¥2,000 多いのは、旅費の概算払いの精算処理をしていなかったことが原因です。よって、仮払金を取消し、旅費交通費を計上します。

(借)	現	金	2,000	(貸)	仮	払	金	30,000
	旅	費	交		通	費		28,000

2. 売掛金回収

(借)	普	通	預	金	50,000	(貸)	売	掛	金	50,000
-----	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

3. 固定資産税引落し

(借)	租	税	公	課	3,000	(貸)	当	座	預	金	3,000
-----	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	-------

[決算整理事項]

1. 貸倒引当金の設定

貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように不足分を繰入れます。

(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	13,000	(貸)	貸	倒	引	当	金	13,000
-----	---	---	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------

受取手形：¥360,000

売掛金：¥290,000 - ¥50,000 = ¥240,000

貸倒見積額：(¥360,000 + ¥240,000) × 2% = ¥12,000

貸倒引当金繰入：¥12,000 - ¥6,000 = ¥6,000

2. 商品の決算整理

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。そして、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借)	仕	入	314,000	(貸)	繰	越	商	品	314,000
(借)	繰	越	商	品	337,000	(貸)	仕	入	337,000

3. 減価償却

定額法による 1 年分の減価償却費は「(取得原価 - 残存価額) ÷ 耐用年数」です。

(借)	減	価	償	却	費	100,000	(貸)	備	品	減	価	償	却	累	計	額	100,000
-----	---	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---------

備品：(¥400,000 - ¥0) ÷ 4 年 = ¥100,000

第140回 解説

4. 保険料の繰延べ

保険料の決算整理前残高¥45,000のうち¥24,000については、11月1日に1年分を支払ったものです。よって、翌年の1～10月分の保険料は翌期の費用なので、10ヶ月分の保険料を繰延べます。

(借) 前払保険料	20,000	(貸) 保険料	20,000
-----------	--------	---------	--------

$$\text{前払保険料} : ¥24,000 \times \frac{10\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = ¥20,000$$

5. 受取利息の見越し

当期の9月1日に貸付けた貸付金の利息を見越し計上します。

(借) 未収利息	2,000	(貸) 受取利息	2,000
----------	-------	----------	-------

$$\text{未収利息} : ¥200,000 \times 3\% \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = ¥2,000$$

6. 受取地代の繰延べ

偶数月の月末に向こう2ヶ月分の地代を受取っているので、期末である12月31日に受取った分は、翌年分の地代です。よって、受取地代の繰延べをします。

(借) 受取地代	12,000	(貸) 前受地代	12,000
----------	--------	----------	--------

7. 支払家賃の繰延べ

(借) 前払地代	11,000	(貸) 支払地代	11,000
----------	--------	----------	--------

8. 当期純利益の記入

損益計算書で貸借差額を算定すると、当期純利益¥266,000が求められます。当期純利益は「損益計算書欄の借方」と、「貸借対照表欄の貸方」に記入します。

当期純利益の場合と当期純損失の場合では、損益計算書欄と貸借対照表欄の記入方法が異なります。以下の表を参照して確認しておきましょう。

	損益計算書欄	貸借対照表欄
当期純利益	借方	貸方
当期純損失	貸方	借方